

バンダバーグ・クリスチャンカレッジ(BCC)の生徒に、自分たちで作成した我が町のグーグルマップを紹介しよう

本単元で育成する資質・能力

主体性・課題解決力・ふりかえり力（メタ認知）

日時 平成30年10月30日（火） 5校時 （13:15～14:05）
 場所 3年A組教室
 学年・組 第3学年A組（男子15名、女子11名、計26名）

1 単元観

本単元の学習活動は、学習指導要領の（4）話すこと[発表]におけるイ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする」こと及び（5）[書くこと]におけるウ「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする」ことをねらいとして設定しており、新出言語材料としては分詞形容詞の前置及び後置修飾用法が挙げられる。

教科書本文ではキング牧師のスピーチに関する英文が掲載されており、本文の読解活動を通して、含まれている複数の情報の中から、書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断して捉える等の「社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができる」力を身に付けさせることができる。

また、この単元の最後には9月20日に来日したBCC生徒との交流を受けて、「BCCの生徒に、自分たちで作成したグーグルマップを説明して、我が町の魅力を紹介しよう」というパフォーマンス課題を設定した。

本学年の生徒は総合的な学習の時間に「神石高原町を世界に発信するためのグーグルマップを作ろう」と題して、神石高原町の埋もれた名所を取材して、グーグルマップにその箇所を掲載するという活動を慶応大学のサークル生とともにいった。そして、7月27日～8月2日にオーストラリアへの中学生派遣事業でBCCを訪れた際に、BCC生徒へその活動の概略の説明を行った。そのうえで、BCC生徒にアンケート調査とともに、「神石高原町の各スポットについての質問（知りたいと思う事柄）を自筆で書いてもらった。（別紙添付資料P〇〇）これを生徒に示すことで、この単元での学習に対する、目的意識と課題解決の必然性を持たせるとともに、総合的な学習の時間で得た知識や情報を、本単元の学習の中でも活用できる（総合的な学習の時間と英語科とを「つなげられる」）単元である。

2 生徒観

本学年の生徒は5月30日に、BCCの生徒と衛星回線を通して、学校の魅力を紹介しようというWeb会議を行った。その会議後に取ったアンケートの結果が下の表である。

	そう思う	どちらかという うとそう思う	どちらかという とそう思わない	そう思わない
(1) Web 会議に向け、三和中学校の魅力を伝えるための英文を(班員で協力しながら)書くことができた。	92%	8%	0%	0%
(2) Web 会議では、三和中学校の魅力を BCC の生徒に伝えることができた。	46%	24%	30%	0%

質問項目(2)に関する生徒の自由記述欄からは、「事前にしっかり練習したつもりだったが、いざ本番となると、原稿から目を離せずに、棒読みになってしまった」、「緊張のせいで早口になってしまい、声の大きさも小さくなってしまった」という記述が見られた。

また、会議終了後にBCCの日本語クラス担当教員であるアンジェラ教諭からは、「My only feedback was to speak louder and a little slower, with more gesture so we can hear their pronunciation a little better.（三和中学校の生徒は、もう少し大きな声で、ゆっくりと、ジェスチャーも付けなが

ら発表をすると良いと思います。そうすることで、より良く（三和中生徒の）発音を聞き取ることができます。」というフィードバックを頂いた。

また、7月12日に行われた神石高原町の英語暗唱大会の代表者を決める校内選考において、第3学年の生徒全員が英文を暗唱し発表した。その際の結果（授業担当者藤井・本校勤務のALTアントニオ、油木高等学校勤務竹下の3名が評価した平均点）が下の表である。

評価項目	満点	平均点
① 声の大きさ	5	3.1
② イントネーション 及び発音	5	2.9
③ 表現力（ジェスチャーやアイコンタクト）	5	1.9

これらの結果から、本校3年生は「英語をアウトプットする」ことに課題があることが分かる。この単位では、「相手意識を持ち、英語で自分の考えを伝える」ことに重点を置きながら、学習活動に取り組ませる必要がある。

3 指導改善のポイント

前述のような生徒実態を受けて、指導にあたっては、以下の工夫を行う。

(1) 主体的・対話的で深い学びに向けた指導の工夫

- ・生徒に、「オーストラリアを訪れた際に、第3学年の「総合的な学習の時間」の活動・取り組みについて説明したところ、BCCの生徒は大変興味を持ち、もっと神石について知りたいと思っている」という状況を伝え、「ネットには載っていない我が町の良さをBCC生徒に伝える」という、生徒の実体験を踏まえた（生徒の学習意欲を高める）学習課題を掲示する。
- ・実際の依頼文（質問文）を示すことにより、課題解決の必然性を持たせるとともに、英文を書いたり、英語でスピーチを行ったりするという活動に対しての目的意識と意欲を持たせる。
- ・文法規則を指導する際に、ボトムアップ式（帰納的）に例を示すことにより、生徒自らにポイントを発見・説明させる。
- ・BCCの生徒がどのような質問をしたのか（どのようなことを知りたがっているのか）に基づき、どのような項目を取り入れ、またそれをどのように英語に直していけば良いかを考えさせる。
- ・BCCの教諭であるアンジェラ先生や前ALTのAJ先生からのフィードバックを提示することにより、発表の方法を工夫、改善しなければならないという必然性を持たせる。

(2) 振り返り場面の指導の工夫

- ・単元中の1つの授業ごとに生徒がその授業の中で目指すべき到達地点（Iレベル：新たにわかったことは何か、Cレベル：他単元や他教科で学んだこととのつながり、Eレベル：日常生活に生かせること等）を明示し、振り返りの視点を明確にする。
- ・ICTを活用しながら自らの発表の際の英語のイントネーションや発音を自己評価させるとともに、表現をする技法が他教科の学習の中でどのように活かせるかを意識させる。

(3) 生徒の実態に合わせた指導の工夫

- ・単元の最初の授業で単元全体の流れ及び最終ゴールを提示することにより、学習の見通しを持たせる。
- ・英文を書く際に必要な文法知識を、グループ活動などを利用しながら、生徒同士で教え合わせる場を設定する。
- ・支援が必要な生徒に関しては、ヒントカードを配布して参考にさせる。
- ・支援が必要な生徒に関しては、授業時間以外にも読み練習を行うとともに、全ての単語にふりがなを打った原稿を渡し、段階に応じて徐々にふりがなを減らしたプリントへと移行させる。
- ・添削相手の原稿について、大まかな日本語や使われている単語や文法を解説したプリントをヒントとして渡すことにより、全ての生徒に、「相手の紹介文を読んだり聞いたりする」活動に取り組ませる。

(4) 本校が目指す3つの資質・能力を身につけさせる工夫

- ・パフォーマンス課題に現実性を持たせることによって、学習に取り組む必然性を持たせたり、自

分とは異なる意見を持つ他者との議論を通して、新たな意見を創造させたりすることによって、生徒の「主体性」を引き出す。

- ・どのような点に注意をしながら練習を行えばスピーチ（プレゼン）の質を向上させることができるのかを、他者との対話や共働学習を通して生徒自身に発見・選択・決定させることによって「課題解決力」を育む。
- ・本単元での学習を、他教科や日常生活のどのような場面で、また、どのように使えることができそうであるかを、生徒の言葉で説明させ「振り返り力」を育む。

4 単元の目標と評価規準

<単元の目標>

- ・聞き手が理解しやすくなるような様々な工夫をしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・新出文法と既習文法を用いながら英文を書き、聞き手に正しく表現する。【外国語表現の能力】
- ・英文を書いたり、修正したりする際に必要な情報を集めるため、教科書本文や英字新聞を適切に読んで理解する。【外国語理解の能力】
- ・前置及び後置修飾用法を用いた文の構造を理解する。【言語や文化についての知識・理解】

<評価規準>

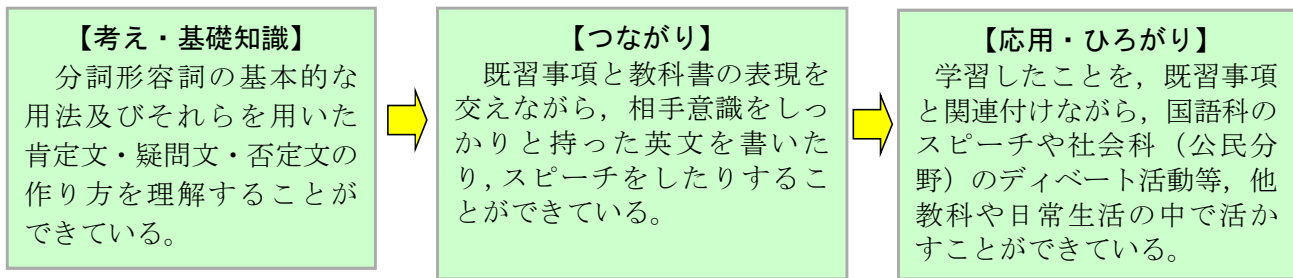
ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識を持ち、どのような表現を用いれば、より相手を納得させる英文になるかを考えている。 ・身振りや手振り等も用いながら、聞き手が理解しやすくなるように工夫をして話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分詞形容詞の修飾用法を踏まえながら、正しい英文を書くことができている。 ・聞き手を意識し、正しい強勢、イントネーション、区切り等に注意しながら伝えることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチやプレゼンに関する映像を視聴して比較をし、どのような点に気を付けて練習を行えば良いのかを発見したり、自身の発表をより良いものへ改善するポイントを見つけたりすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞の基本用法を理解することができている。 ・分詞形容詞の修飾用法の基本文型を理解することができている。 ・分詞形容詞を用いた肯定文、疑問文及び否定文の基本的な作り方を理解することができている。

5 指導と評価の計画

○本単元で身に付けさせたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	I (基礎知識)	C (つながり)	E (応用)
主体性	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に対して、どのような表現を用いて英文を作成すればよいかを考えようとしている。 ○どのようなスピーチを行えばBCC生徒に我が町の魅力を伝えることができるか(スピーチの練習をしていく視点にはどのようなものがあるか)を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見と他者の意見を比較したり、議論したりすることによって、自分の考えの根拠を確立している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学生に向けて、中学校での英語の授業の様子を英語で紹介する計画を立てるなど、学んだことを生かすために新たな活動を創り出そうとしている。
課題解決力 (探究力)	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決に向けて必要な文法事項を理解し、それらを用いて正しい英文を書くことができる。 ○複数の映像の視聴を通して、スピーチを行う際の注意点を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決に向けて、お互いのスピーチ原稿を読み合ったり、発表の様子を視聴しあったりして、それらを改善するためのアドバイスをすることができる。 ○他者から指摘された改善点を踏まえて自身の発表を修正することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本単元で学習した分詞形容詞を、映画の字幕に取り入れられている箇所はないかを探し、翻訳活動を行うなど、新たな課題の解決や探究に取り組むことができる。
ふりかえり力 (メタ認知力)	<ul style="list-style-type: none"> ○分詞形容詞の基本用法とそれらを用いた肯定文、疑問文及び否定文の基本的な作り方が、どこまで理解できているかが分かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しく学んだ内容を、国語科のスピーチや社会科の公民分野におけるディベート等の中で、どのように活かしていけば良いか(つなげていけばよいか)を分かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しく学んだ内容を基に、この単元の学習前に行った、英語暗唱大会の校内選考の様子をビデオを視聴し、自分の発表の改善点を挙げることを通して、単元の学習前後で自己がどのように変容したのかが分かっている。

【ICEモデル】



(全 12 時間)

次	学習活動	生徒の思考の流れ	観点				評価	
			関	表	理	知	◇評価規準	★資質・能力(評価方法)
1	課題の設定 本時の目標：パフォーマンス課題について理解し、解決するための見通しを考えることができる。							
	○「地域に関する意識調査」についての、BCC生徒の回答結果の分析を行う。 (別紙添付資料P○○)	◇以下の5つの項目について、班ごとに回答割合及び理由の集計を行わせる。 ① (自分たちの住んでる) 町が好きであるか ② 質問①の理由 ③ 将来町に帰ってきたいと思うか ④ 質問③に対する具体的時期 ⑤ 町に貢献したいと思うか ◆②に関して、BCC生徒が記述した文の中に用いられている単語を、日本語に訳し、ヒントカードとして、必要に応じて配布する。						
	【パフォーマンス課題の提示】 ○BCCの生徒が神石高原町に興味を持っており、神石について知りたがっていることを知る。	・本当に自分たちの故郷を世界に向けて発信するんだな。 ・この単元の最後にはビデオレターを作成するのだな。	○				◇相手意識を持ち、どのような項目を入れればより相手を納得させる英文になるかを考えている。(行動観察・ワークシート) ★課題に対して、どのような項目を入れて英文を書けばよいかを考えようとしている。【主体性】	
BCCを訪れた際に、3年生の総合的な学習の時間の中で行っていること(故郷のインスタ映えするスポットをグーグルマップにして、世界へ向けに発信する活動をしているということ)をBCC生徒のへ紹介した際に、それぞれのスポットについてたくさんの質問が出たことを伝える。								
	○BCC生徒からされた、どの質問に答えていくかを分担する。	・「上田原の崖」の高さについて聞かれているので、自分はそれに答える情報を入れて英文を作ろう。						
2	情報収集① 本時の目標：関係代名詞を用いて2文を1文にすることができる。							
	○2つの文を1つの文にする方法を考える。	・5月のWeb会議で関係代名詞を学習したな。						
	○関係代名詞を用いて文をまとめる方法を確認する。	・主格関係代名詞と目的格関係代名詞の違いは何だったかな。					◇関係代名詞の基本用法を理解することができる。(ワークシート)	

	<p>○関係代名詞を用いて文を短くする練習を行う。</p> <p>○読み物資料の中から、関係代名詞を用いてまとめることができる箇所を探して、修正する。</p>	<p>・共通ワードである先行詞を見つけることが大切だったな。</p> <p>・関係代名詞を用いた方が文がすっきりして見えるな。</p>				<p>★課題解決に向けて、必要な文法事項を理解し、それらを用いて正しい英文を書くことができる。(ワークシート・行動観察) 【課題解決力】</p>
3	<p>情報収集② 本時の目標：アンジェラ教諭からのリクエストに応えるために、英文を短くする方法を考えることができる。</p>					
本時	<p>○アンジェラ教諭からのビデオレターを視聴する。</p> <p>○掲示された英文をどのように変えていけばより簡潔で分かりやすい英文になるのかを考え、全体に向けて発表する。 (個人思考→班での思考)</p> <p>○3文めと4文めに注目をし、その箇所を短い英文に直す方法を考える。 (個人思考→班での思考)</p> <p>○各班の意見を黒板に貼り、英文を作った過程の説明を行う。</p> <p>○説明を受けての意見交流を行う。</p> <p>○英文を短く表現する手法として「分詞形容詞」があることを知って、まとめと振り返りを行う。</p>	<p>・自分たちの発表をより良いものにするためには、もっと英文を簡潔にまとめないといけんだな。</p> <p>・「6 本時の学習 【予想される生徒のやり取り】」を参照。</p> <p>・「6 本時の学習 【予想される生徒のやり取り】」を参照。</p> <p>・「6 本時の学習 【予想される生徒ふりかえり例】」を参照。</p>	○	○		<p>◇相手意識を持ち、どのように英文を短くすればより相手を納得させる英文になるかを考えている。(行動観察・ワークシート)</p> <p>★課題に対して、どのような項目を入れて英文を書けばよいかを考えようとしている。【主体性】</p>
4	<p>情報収集③ 本時の目標：分詞形容詞の前置修飾の意味と使い方を理解して、自分の言葉で前置修飾の文法規則を説明することができる。</p>					
	<p>○(日本語で)2つの文を1つの文に直すにはどうしたら良いかを考える。</p> <p>○分詞形容詞の前置修飾の作り方を知り練習する。</p> <p>◆黒板に5文程度の前置修飾を含んだ英文を貼り、前置修飾の箇所を赤色にして、視覚的に前置修飾を置く位置を理解させる。</p> <p>○前置修飾の作り方についてのまとめの記述を行う。</p> <p>○次時の授業では後置修飾の用法について学習することを覚える。</p>	<p>・「この女の子は中学生です」という文と「女の子は走っています」という文は「走っている女の子は中学生です」とすれば1つの文になるな。</p> <p>・「This girl is a junior high school student.」という文に「Junior high school girl is running.」という文の要素を加えてあげればいんだな。</p> <p>・修飾したい名詞の前に動詞のing形または過去分詞形を置くと「～している／～された」名詞という意味になる。</p> <p>・前置修飾では名前の通り、動詞のing形や過去分詞形を説明したい名詞の前に置いたけれど、後置修飾ではそれが逆になりそうだな。</p>	○	○		<p>◇分詞形容詞の修飾方法の基本文型を理解することができる。(まとめの記述)</p> <p>★課題解決に向けて、必要な文法事項を理解し、それらを用いて正しい英文を書くことができる。(ワークシート・行動観察) 【課題解決力】</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 前置修飾が名詞の後に置かれる場合もあるのだな。前に置く場合と後に置く場合では、どのような違いや規則があるのだろうか。 				
5	<p>情報収集④</p> <p>本時の目標：分詞形容詞の後置修飾の意味と使い方を理解して、紹介文の中に入れる1文を考えることができる。</p>	<p>○前時の復習を行う。</p> <p>○後置修飾が使われている英文を黒板に掲示し、前置用法との違いを考える。</p> <p>◆黒板に掲示してある文章の、後置修飾が用いられている箇所を[]で示して分かりやすくしたもの、ヒントカードとして配布する。</p> <p>○紹介文の中に入れる1文を前置修飾用法か後置修飾用法のいずれかを用いて考える。</p> <p>◆「班員全員が必ず1文を書いた状態で授業を終わる」という指示を出し、班活動を行わせることによって、生徒同士の教え合いを行わせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前回学んだ前置修飾は、名詞の前にing形や過去分詞形を置く用法だったな。 前置用法では1つの語だけを名詞の前に置いていたのに対して、後置用法は2つ以上の語を名詞の後ろに置くのだな。 私は福樹川大橋を紹介したい。 The bridge surrounded by great nature is Fukumasukawa Ohashi. 「大自然に囲まれている橋が福樹川大橋です」という後置修飾を使った文を入れてみよう。 私は亀鶴山八幡神社について書こう。ただ、いきなり「亀鶴山八幡神社は～」としてもBCCの生徒にはきちんと伝わらないだろうから This is a temple called Kametsuruyama Hachiman jinja として、templeという情報を後置修飾を使って（BCC生徒にとって亀鶴山八幡神社が何なのかを）わかりやすく表現しよう。 			<p>○◇分詞形容詞の修飾方法の基本文型を理解することができる。（ワークシート・行動観察）</p> <p>○◇分詞形容詞の修飾用法を踏まえながら、正しい英文を書くことができる。（ワークシート・行動観察）</p> <p>★課題解決に向けて、必要な文法事項を理解し、それらを用いて正しい英文を書くことができる。（ワークシート・行動観察）【課題解決力】</p>

6	整理・分析①	本時の目標：班ごとに担当箇所を分担して、紹介文を完成させることができる。				
7	<p>○班ごとにどの観光スポットの紹介文を書くのかを決める。</p> <p>○班員で各観光スポットにどのような項目を取り入れるか（BCCの生徒からのどの質問に答えるか）を分担する。</p> <p>○英文を作成する。</p> <p>○完成した英文を、以下の3つの項目に注意しながら班の中で回し読みをして、改善点をアドバイスしあう。</p> <p style="text-align: center;">[英文を読み合う視点]</p> <p>① 分詞形容詞の修飾用法を正しく使うことができるか</p> <p>② 単語のミスや文法的な間違いはないか</p> <p>③ 日本人には当たり前だが、BCCの生徒にとっては未知の情報はないか（もしあれば、それをきちんと説明しているか）</p>	<p>・私たちの班は上八幡神社についての紹介文を書こう。</p> <p>・私は「上八幡神社の歴史」について質問を受けたので、それについて書いてみよう。</p> <p>・①について、分詞形容詞を置く場所は正しいけれど、「～している名詞」という意味にしなければいけないので、過去分詞ではなくてing形を置かなければいけないのではないかな。</p> <p>・②について、特にミスはないな。</p> <p>・③について、「お寺」は日本人にはなじみ深いものだけど、オーストラリアの人に伝わるかな。</p>				<p>○</p> <p>◇分詞形容詞の修飾用法を踏まえながら、正しい英文を書くことができる。（生徒が記述した英文・行動観察）</p> <p>★課題解決に向けて、お互いのスピーチ原稿を読み合い、改善するためのアドバイスをすることができる。（行動観察）【課題解決力】</p>
8	整理・分析②	本時の目標：プレゼンテーションを行うときに注意する点を確認して、発表練習を行うことができる。				
9	<p>○英文の発表を行う際に、どのような点に注意すべきかを確認する。</p> <p>○プレゼンの練習を行う。</p> <p>○（6次の終わりにビデオ撮影したものを）前ALTのAJ先生に見てもらいフィードバックを聞く。</p> <p>○AJ先生から言われた「故郷の魅力をよりよく伝えるためにはどのようにしたら良いか」を考える。</p>	<p>・英語暗唱大会の校内選考の練習の時にも意識した「声の大きさ」や「アイコンタクト」を今回も意識してみよう。</p> <p>・自分たちの発表には何が足りないのだろうか。</p> <p>・どんなことに注意したら自分たちの故郷の魅力を更に伝えることができるだろうか。</p>				<p>○</p> <p>◇聞き手を意識し、正しい強勢、イントネーション、区切り等に注意しながら伝えることができる。（行動観察）</p> <p>★課題解決に向けて、お互いの発表の様子を視聴し合い、改善するためのアドバイスをすることができる。（行動観察）【課題解決力】</p>
10	整理・分析③	本時の目標：プレゼンを行うときの注意点を確認し、自分たちの発表をより良くするためにはどのような点に注意したらよいかを発見することができる。				
	<p>○アンケートの結果を比較して、自分たちとBCC生徒の、地域に対する思いについての共通点や相違点を確認する。</p> <p>○プレゼンの模範となるビデオを視聴する。</p> <p>○ビデオから、自分たちの発表を行う際のポイント（気を付けるべき</p>	<p>・この単元の初めにもデータの比較を行ったな。</p> <p>・自分たちと同じような考えを持っているBCCの生徒に自分たちの故郷を紹介するためにこの活動をしているんだっとな。</p> <p>・プレゼンターは全てを同じ調子で言うのではなく、ある語やある文を強調しながら言っているな。</p> <p>・同じ文を2回繰り返して言う場面があるな。これはど</p>				<p>○</p> <p>◇スピーチやプレゼンに関する映像を視聴して比較をし、どのような点に気を付けて練習を行えば良いのかを発見したり、自身の発表をより良いものへ改善するポイントを見つけたりすることができる。（行動観察・ワークシート）</p>

	<p>観点) を考える。</p> <p>○自分たちの発表を撮影したビデオを視聴し、そのポイント(観点)に照らし合わせて評価する。</p> <p>○改善点を踏まえた練習を行う。</p> <p>○他班に向けて発表を行う。</p> <p>【議論の場面】</p> <p>○ポイント(観点)に照らし合わせて、お互いに改善のためのアドバイスをを行う。</p> <p>○まとめの記述を行う。</p>	<p>うしてだろう。</p> <p>・これから発表をする時には</p> <p>①伝えたい所を強調して発音する。</p> <p>②相手に興味を持ってもらいたい部分を2度読む。</p> <p>③「英語らしい」発音やイントネーションの3点を意識しよう。</p> <p>・改めて自分の発表を見てみると、全ての文を同じ声の調子で読んでしまっているの、何が一番大切なところなのか分かりづらいな。</p> <p>・すべての文を一度しか読んでいないな。</p> <p>・授業で勉強した、カタカナ発音になってしまっている個所がいくつかあるな。</p>					<p>○ ★課題解決に向けて、お互いのスピーチ原稿を読みあったり、発表の様子を視聴しあったりして、それらを改善するためのアドバイスをすることができる。(行動観察・ワークシート) 【課題解決力】</p>
11	<p>まとめ・創造・表現①</p> <p>○発表の練習を行う。</p> <p>○発表の様子をビデオカメラに向けて発表する。</p>	<p>本時の目標：改善点を踏まえて、BCCの生徒へ日本のおすすめスポットを紹介するプレゼンを行う。</p> <p>・前回の授業で友達からもらったアドバイスを意識しよう。</p>					<p>◇聞き手を意識し、正しい強勢、イントネーション、区切り等に注意しながら伝えることができる。(行動観察)</p> <p>★改善点を踏まえて自身の発表を修正することができる。(行動観察) 【課題解決力】</p>
12	<p>ふりかえり</p> <p>○BCC生徒からのフィードバックを視聴する。</p> <p>○フィードバックを参考にしながら、10時間前の自分の表現力と現在の表現力について、どのように変化したのか、また、この単元で学んだ内容を他の授業でどのように活かすことができるかを記述する。</p>	<p>本時の目標：BCC生徒からのフィードバックを参考に、自分たちの発表の振り返りを行う。</p> <p>・自分の伝えたい内容をきちんと伝えることができた。</p> <p>・この単元の学習を通して、分詞形容詞の前置・後置修飾によって、2文以上の内容を1文で、よりスマートに表現できるようになった。発表の際に気を付けた「大事な部分を強調しながら複数回読む」という方法は、国語の授業のスピーチや、社会の授業でのディベートに活かすことができると思う。</p>					<p>○ ◇分詞形容詞の修飾用法の基本文型を理解することができる。(生徒が記述したまとめの文章)</p> <p>★分詞形容詞の基本用法と、それらを用いた肯定文、疑問文及び否定文の基本的な作り方が、どこまで理解できているかが分かっている。(生徒が記述したまとめの文章) 【振り返り力】</p> <p>★新しく学んだ内容を、他教科の授業の中でどのように活かしていけば良いかを分かっている。 【振り返り力】</p>

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	課題解決力（探究力）
教科の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識を持って、文のつながり等にも注意をしながら、グーグルマップへ載せた神石高原町のおすすめ観光スポットを紹介する英文を書くことができる。 ・聞き手を意識して、様々な工夫を凝らしながら自分の考えや気持ちを伝えることができる。

パフォーマンス課題のシナリオ

今年の夏休みに、今年度から新たに始まった「神石高原町中学生海外派遣事業」で藤井教諭がBCCへ行きました。そこで藤井教諭がBCCの生徒に、第3学年の総合的な学習の時間では、「生徒自らが地域の隠れたスポットを発見し、それを調査してまとめ、グーグルマップに載せて、故郷を世界に発信する活動をしている」ということを伝えたところ、「神石高原町のことをもっと知りたい」という生徒がたくさんおり、様々な質問を受けました。

そこで、自分たちが総合的な学習の時間で作成したグーグルマップの各スポットについて紹介する英文を書き、BCCの生徒へプレゼンテーションを行い、BCCの生徒からの質問に答えてあげましょう。

そして、世界発信の最初のステップとして、BCCの生徒に自分たちの故郷について知ってもらいましょう。

ただし、次の条件を満たしたものとすること。

筆記の条件① 文の前後のつながりを意識して書くこと。

筆記の条件② 本単元で学習した分詞形容詞を1箇所以上用いて書くこと。

発表の条件① 伝えたい所を強調して読む（発音する）こと。

発表の条件② 相手に興味を持ってもらいたい個所を複数回繰り返して読む（発音する）こと。

発表の条件③ 英語らしい発音やイントネーションを用いること。

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)	
	英文評価	発表評価
3 理想的	I am going to introduce the recommended spot in Jinseki. There is a famous temple called Kamesturuyma hachiman jinja in Jinseki. Do you know what we can do there? We can enjoy Japanese traditional festival. Please look at these pictures. Each one shows the scenery we can see there. When I was an elementary school student, I went there. I could see the Maturi performance. Please enjoy that if you visit our town.	条件①～③の全てを満たしている。 条件① 「There is a famous temple called Kamesturuyma hachiman jinja in Jinseki.」という英文を強調して読む（発音する）ことができている。 条件② 「traditional festival」という最も伝えたい箇所を複数回読む（発音する）ことができている。 条件③ 子音結合やlとrの音の違いに注意しながら読む（発音する）ことができている。
2 合格	I am going to introduce the recommended spot in Jinseki. This temple called Kamesturuyma hachiman jinja is a famous temple. Please look at these pictures. We can see great scenery at festival. I could see it when I was an elementary school student. I hope you enjoy it if you visit Kamesturuyma hachiman jinja.	条件の①及び②のみを満たしている。 条件① 「We can see great scenery from at festival.」という英文を強調して読む（発音する）ことができている。 条件② 「I could see it」という最も伝えたい箇所を複数回読む（発音する）ことができている。
1 乗り越えさせたい実態	I am going to introduce spot. It is Kamesturuyma hachiman jinja in Jinseki kogen town. We can see great scenery there. Please enjoy	条件①～③のいずれも満たしていない。

6 本時の学習

(1) 本時の目標

アンジェラ教諭からのリクエストに応えるために、日本語の意味を変えずに、より少ない語数で表現するための新しい方法を考えることができる。

(2) 本時の評価規準

課題に対して、どのような表現を用いて英文を作成すればよいかを考えようとしている。(主体性)

(3) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 BCCの教員であるアンジェラ教諭からのビデオを視聴する。 [5分]			
◇BCC教員であるアンジェラ先生からのビデオレターを視聴する。	<p>【ビデオレターの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の総合的な学習の時間の取り組みを聞いて、とても素晴らしいことだと思っている。 ・BCCの生徒たちも、グーグルマップに載せている各スポットについて興味を持っているので、是非紹介してほしい。 ・5月30日にWEB会議を行ったが、その中で発表された英文の内容に関係代名詞を使った個所があり、良く工夫されていて良かった。 ・ただ、関係代名詞を使った個所が多くありすぎて、少しくどい印象を受けたので、グーグルマップの紹介時は関係代名詞以外の方法(内容的に重なりがある複数の文を1文にまとめる等)も使いながら、文を簡潔に(短く)してほしい。 <p>◇ビデオを視聴させることにより、本時の学習に取り組む必然性を持たせるとともに、本時の流れを示す。</p>		
2 掲示された英文をどのように変えていけば良いかを考え交流する。 [15分]			
<p>○アンジェラ教諭のリクエストを受けて、掲示された英文をどのように変えていけばより短くて分かりやすい英文になるのかを考える。(個人思考→班思考)</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>様々な意見を出し合うための班思考(拡散型の班思考)</p> </div> <p>○(数名の生徒が)班で話し合った意見をクラス全体に向けて発表する。</p>	<p>◇黒板に英文を掲示し、ワークシートを基に個人思考を行わせ、その後グループで意見交流を行わせる。</p> <p>◆既習文法事項である関係代名詞を用いて、英文を短くする方法を整理したヒントカードを、必要に応じて配布する。</p>	<p>・相手意識を持ち、どのような表現を用いれば、より相手を納得させる英文になるかを考えている。(行動観察・ワークシート)</p>	<p>・課題に対して、どのような表現を用いて英文を作成すればよいかを考えようとしている。(行動観察・ワークシート)(主体性)</p>
	<p>【掲示用英文】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① Please look at this picture. ② This is Shinryu lake in Jinseki. ③ We can see red bridge there. ④ Red bridge is called Shinryu-bashi. ⑤ We can also see people there. ⑥ People puddle boats there. 		

【予想される生徒の意見】

- ・ 1 つめの文と 2 つめの文をつなげて、「Please look at this Shinryu lake picture in Jinseki.」 としたら短くまとめることができる。
- ・ 関係代名詞を使って、3 文めと 4 文めをつなげて、「We can see red bridge that (which) is called Shinryu-bashi.」 とすることができる。
- ・ 5 文めと 6 文めも同じように関係代名詞を使って、「We can also see people who (that) puddle baots there.」 とまとめることができる。

4 掲示された英文の 3 文めと 4 文めに注目して、それらを短くする方法を考え交流する。〔25分〕

- 掲示英文の 3 文めと 4 文めを短くする方法を考える。
(個人思考→班思考)

意見を 1 つにまとめるための班思考 (収束型の班思考)

- ◇ 掲示英文の 3 文めと 4 文めに注目させ、(関係代名詞を使う以外の方法でも文を短くすることができることを伝え、) 短くする方法を考えさせる。

- ・ 相手意識を持ち、どのような表現を用いれば、より相手を納得させる英文になるかを考えている。
(行動観察・ワークシート)

- ・ 課題に対して、どのような表現を用いて英文を作成すればよいかを考えようとしている。
(行動観察・ワークシート) (主体性)

- 各班ごとに意見を用紙にまとめ、黒板へ掲示して全体への説明を行う。

- ◇ 似たような意見をまとめ、各班ごとに意見の根拠 (英文を作った過程) を説明させる。

- 説明を受けて質疑応答を行う。【議論の場面】

【予想される生徒のやりとり】

【例 1】

私たちの班は「We can see red bridge that (which) is called Shinryu-bashi.」という文を作りました。2 つの文を短くすることはできましたが、見ての通り関係代名詞を使っています。私たちの班では関係代名詞を使わない方法を思いつくことができなかったなので、他の班の意見を聞きたいと思います。

【例 2】

「私たちの班は「We can see red bridge call Shinryu-bashi.」という文を作りました。まず前半で「赤い橋を見ることができる」ということを表して、その後に神龍橋という橋の名前を付け加えました。」
「なんとなく意味は伝わりますが、1 つの文の中に動詞が 2 つも入っているので、正しい文にはなっていないと思います。」

4 本時のまとめとふりかえりを行う〔5分〕

- 3 文めと 4 文めを短くする方法を知る。

- ◇ 掲示英文の 3 文めと 4 文めに分詞形容詞を用いたものを掲示し、短くまとめることができることを視覚的に理解させる。

【掲示用英文】

- ① Please look at this picture.
- ② This is Shinryu lake in Jinseki.
- ③ We can see red bridge there.
- ④ Red bridge is called Shinryu-bashi.
- ⑤ We can also see people there.
- ⑥ People puddle boats there.

We can see red bridge called Shinryu-bashi there.

○本時のまとめとふりかえりを行う。	◇関係代名詞を用いて文を短くする方法と、分詞形容詞を用いて短くする方法とを並列して板書し、ワークシートにまとめさせる。(次ページ板書計画参照) ◆「今日新たに分かったこと (Iレベル)」、「今までに習ったこととの関係性 (Cレベル)」、日常生活の中でどのように使われているか (Eレベル)」という3つの視点を与え、ふりかえりを記入させる。		
<p>【生徒ふりかえり例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分詞形容詞というものを使って文を短くする方法が分かった。(Iレベル) ・今までは関係代名詞を使って2文を1文にする方法を習っていたが、今日は分詞形容詞を使う方法があることが分かった。(Cレベル) ・映画など、短い文章で意味を伝えている文に分詞形容詞が使われていると思うので、今度洋画のDVDを借りた時には、字幕設定を英語にして見てみたいと思う。(Eレベル) 			

板書計画

本時の目標 アンジェラ教諭からのリクエストに応えるために、英文を短くする方法を考えることができる。

【掲示用英文】

- ① Please look at this picture.
- ② This is Shinryu lake in Jinseki.
- ③ We can see red bridge there.
- ④ Red bridge is called Shinryu-bashi.
- ⑤ We can also see people there.
- ⑥ People puddle boats there.

班思考
発表用紙

班思考
発表用紙

班思考
発表用紙

本時のまとめ
2文を1文にする方法

○関係代名詞

- ・ We can see red bridge there.
- ・ Red bridge is called Shinryu-bashi.

We can see red bridge **which (that) is called** Shinryu bashi there.

○分詞形容詞

- ・ We can see red bridge there.
- ・ Red bridge is called Shinryu-bashi.

We can see red bridge **called** Shinryu bashi there.